



「外為短期投資家動向調査」結果

<第26回調査>

2011年7月25日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年7月12日(火)13:00~2011年7月19日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、636件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

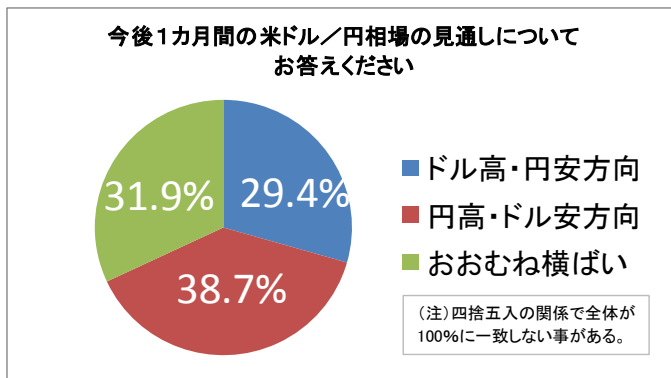
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第26回調査結果略報：ドル円予想DI4カ月ぶりにマイナスへ】

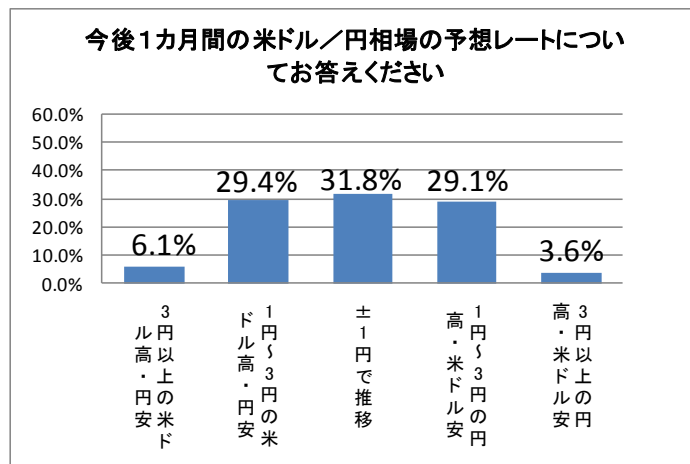
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が29.4%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が38.7%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲9.3%ポイントとなり、前回調査の+11.3%ポイントにから一転して円強気・ドル弱気派が優勢となった。調査期間中のドル円相場は80円台から一時78円台に下落、その後も79円を挟んで上値が重い様子が目立った。なお、ドル円が76.25円の史上最安値を記録した今年3月のドル円予想DIは▲5.2%ポイントであったが、今回調査ではこれを上回るマイナス幅を記録している。3月のドル円急落時は、本邦当局による円売り介入もあって翌日には81円台に値を戻したが、今回の下落局面では介入観測が高まらず、下値付近でもみ合いが続いている。これが、3月以上のマイナスDIにつながったのではないだろうか。※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が31.8%と最も多く、次いで「1円～3円の米ドル高・円安」が29.4%、「1円～3円の円高・米ドル安」が29.1%、「3円以上の米ドル高・円安」が6.1%、「3円以上の円高・米ドル安」が3.6%の順になった。ヒストグラムは台形状となっており、今後1カ月の値動きが比較的小幅にとどまるとの予想が大勢を占める事を示している。問1の結果と重ね合わせると、FX投資家の間では、今後1カ月間のドル円相場について、1～3円の円高・ドル安、つまり75円から78円程度での推移が予想の中心値であると考えられる。



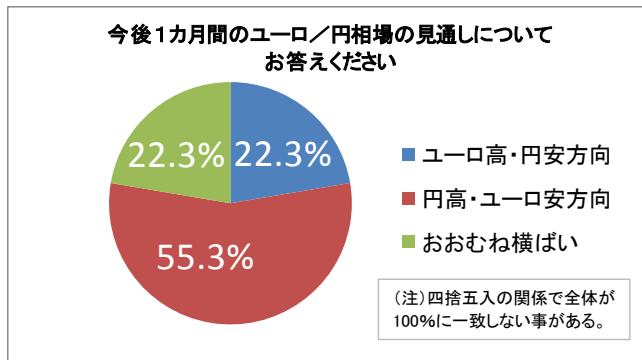
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

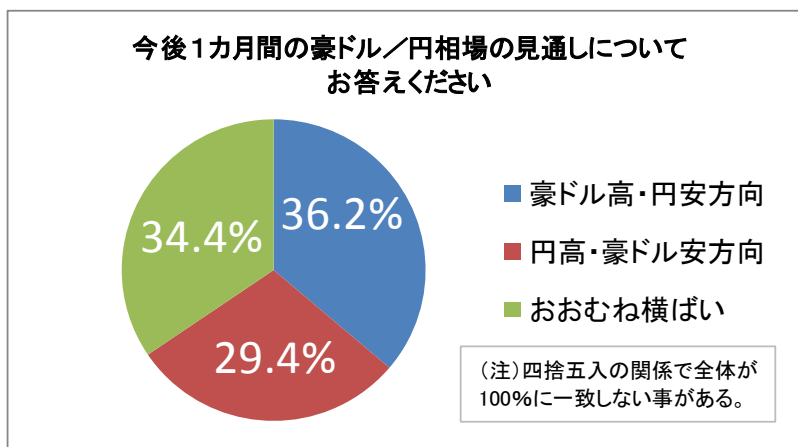
「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が22.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が55.3%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲33.0%ポイントとなり、前回調査の▲19.1%ポイントからマイナス幅が拡大した。調査期間中のユーロ円相場は、ソブリン危機がスペインやイタリアへ拡大するとの懸念から4カ月ぶり安値となる109円台まで下落後、買い戻しが優勢となり112円台まで反発した。しかし、ギリシャ向け追加支援をめぐる不透明感や、ソブリン危機拡大への懸念は完全には払拭されていない事から、ユーロの弱含みは今後も続くとしているFX投資家が多いようだ。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が36.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が29.4%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+6.8%ポイントとなり、豪ドル強気予想は維持したものの、3カ月連続でプラス幅が縮小した。調査期間中の豪ドル円は欧州債務懸念の高まりや米国景気の減速懸念を背景に83円台に下落。その後85円台まで反発したものの、同じオセアニア通貨であるNZドルに比べて上伸力は見劣りする。一部では豪準備銀行が年内に利下げに動くとの観測が台頭するなど、これまで好調を維持してきた豪州経済にも一服感が漂い始めており、FX投資家の豪ドル強気姿勢が徐々に後退しつつあるようだ。

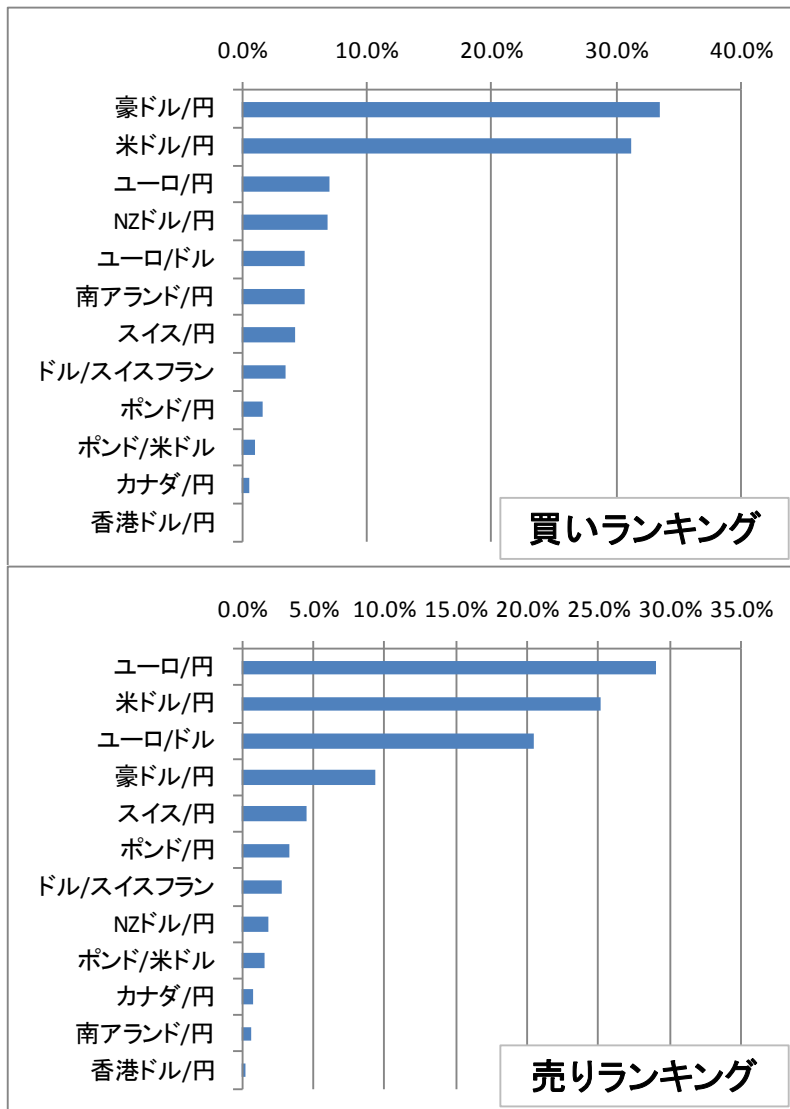


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

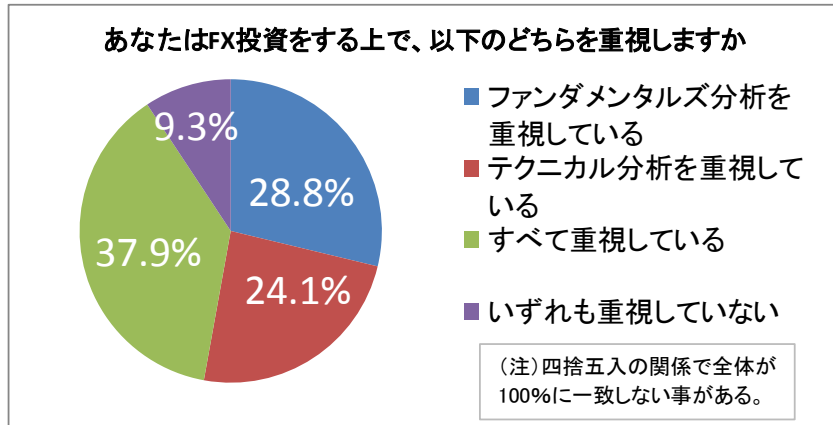
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(33.5%)、2位ドル円(31.3%)、以下大きく離れて3位ユーロ円(7.1%)、4位NZドル円(6.9%)、5位はユーロドル(5.0%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(29.1%)、2位ドル円(25.2%)、3位ユーロドル(20.4%)、4位豪ドル円(9.4%)、5位スイス円(4.6%)となった。「買い」で注目の通貨ペアは今回も豪ドル円とドル円が人気を二分する形だが、合算の回答割合は64.8%にとどまり、前回調査の70.2%からやや低下している。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは、ユーロ円が2カ月ぶりに1位に返り咲いており、ユーロドルも3位に入った。欧州債務問題に対する懸念が根強いユーロについては、「売り」の機会をうかがっているFX投資家が多数存在する事が改めて示された。また、「買い」で注目の第4位にランクインしたNZドル円は、地味ながらも前回調査(4.0%)から回答割合を増やしている。クライストチャーチ大地震による経済の落ち込みは軽微であり、早期利上げ観測が台頭している事から、一部のFX投資家の注目を集めつつあるようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

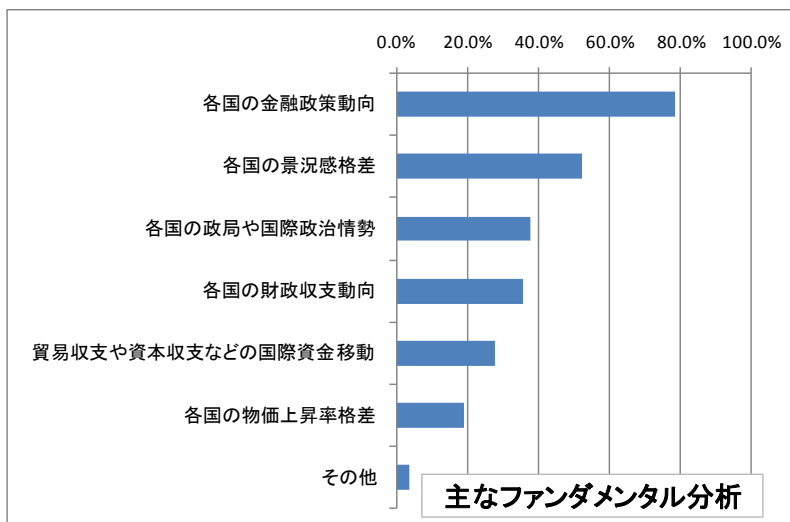
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が28.8%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が24.1%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が37.9%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は9.3%となった。調査期間中には、ドル円相場で仕掛け的な売りや、介入と見まがうような買いが入るなど、やや荒い値動きとなる場面も見られたが、回答割合に顕著な変化は見られない。FX投資家の分析手法の好みは、相場環境には左右されにくいようだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(78.5%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(52.4%)」、「各国の政局や国際政治情勢(37.7%)」、「各国の財政収支動向(35.8%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(27.7%)」、の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して8割近い回答割合を集めている。為替相場を動かす最も基本的な要因である「金利差」につながる「金融政策格差」を重視しているFX投資家が多数を占める事が改めて示された。

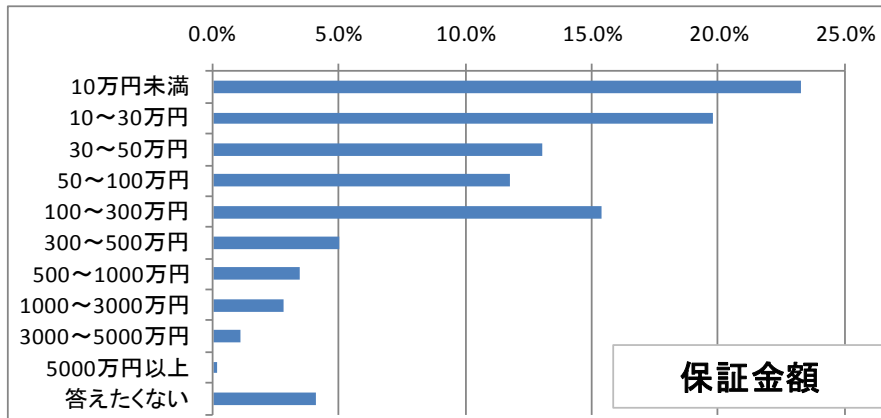


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

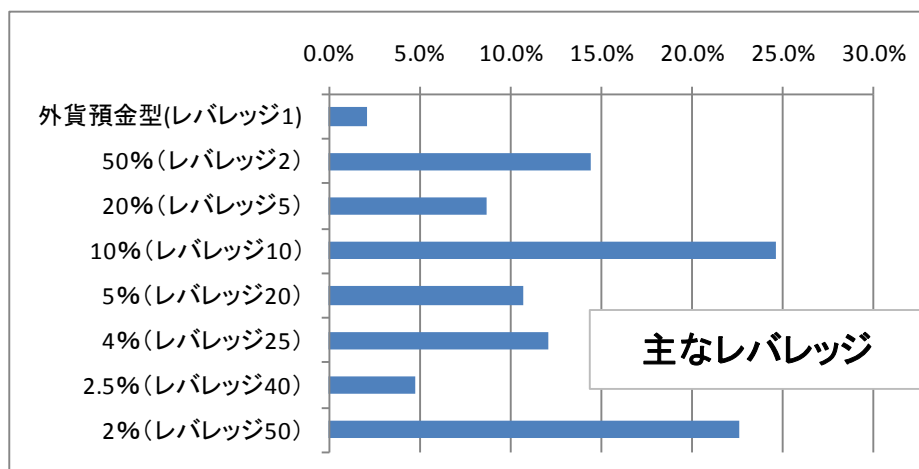
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が23.3%と最も多く、以下「10～30万円(19.8%)」、「100～300万円(15.4%)」、「30～50万円(13.1%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家が68.0%を占める(合算割合)一方で、1000万円以上と答えた合算割合は4.1%にとどまった。比較的小額の保証金で取引が可能というFX取引の特性を生かしている投資家が多数存在している事がうかがえる。レバレッジ規制(上限を50倍から25倍に引き下げ)実施後に、FX投資家の保証金の額がどう変化するのか、来月以降の調査結果が注目される。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

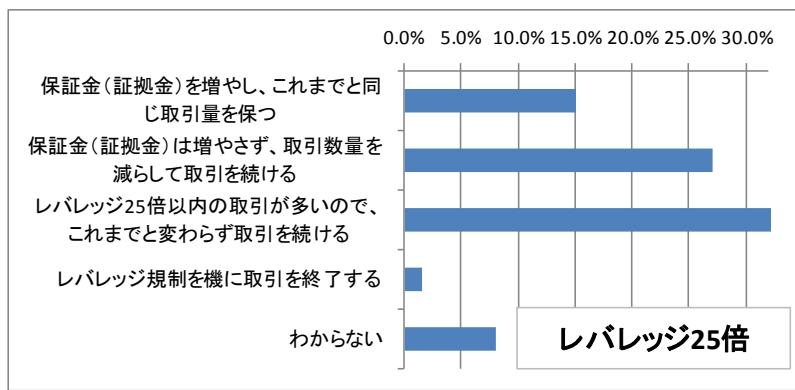
「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「10%(レバレッジ10)」が24.7%と答えた割合が最も多く、「2%(レバレッジ50)」が22.6%、以下「50%(レバレッジ2)」が14.5%、「4%(レバレッジ25)」が12.1%と続いた。前回調査で28.7%と最も多い回答割合を得ていた「2%(レバレッジ50)」が回答割合を減らして2位に後退した一方で、8月からは上限となる「4%(レバレッジ25)」が、前回調査(6.3%)から2倍近い回答割合を得た点は非常に興味深い。レバレッジ規制導入を目前に控えて、一部のFX投資家は、前倒してレバレッジを50倍から25倍に引き下げた可能性がある。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

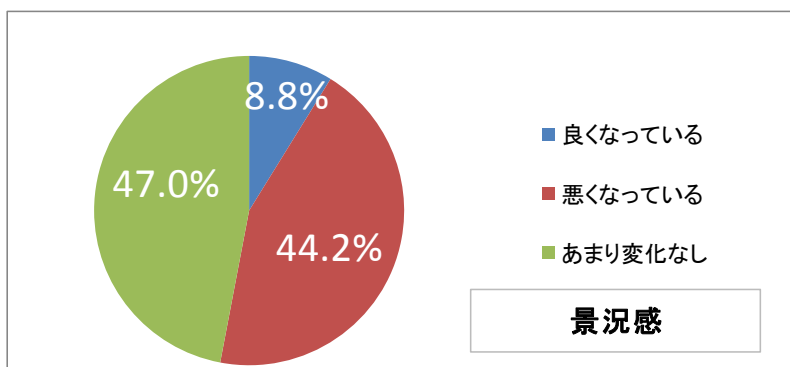
問10: 平成23年8月1日から、FX取引について、レバレッジの上限が25倍まで(証拠金率4%以上)となります。この規制を受けて、今後のFX取引の意向をお伺いいたします。

今月の特別質問項目として、レバレッジ規制実施後のFX取引の意向について尋ねたところ、「これまでと変わらず取引を続ける」と答えた割合が48.3%と最も多く、以下「保証金は増やさず、取引数量を減らして取引を続ける」が27.0%、「保証金を増やし、これまでと同じ取引数量を保つ」が15.1%、「わからない」が8.0%、「レバレッジ規制を機に取引を終了する」が1.6%と続いた。3割程度のFX投資家が、規制後に「取引数量を減らす」もしくは取引そのものを「終了する」と考えている事が明らかになり、8月以降のFX市場全体の取引高減少は避けられない見通しだ。また、「保証金は増やさず、取引数量を減らして取引を続ける」とした理由については「余裕資金での運用だから」、「リスク管理のため」などが挙げられた。一方、「保証金を増やし、これまでと同じ取引数量を保つ」とした理由では「これまでと同様の収益を上げるため」など収益率の維持を挙げる回答が目立った。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

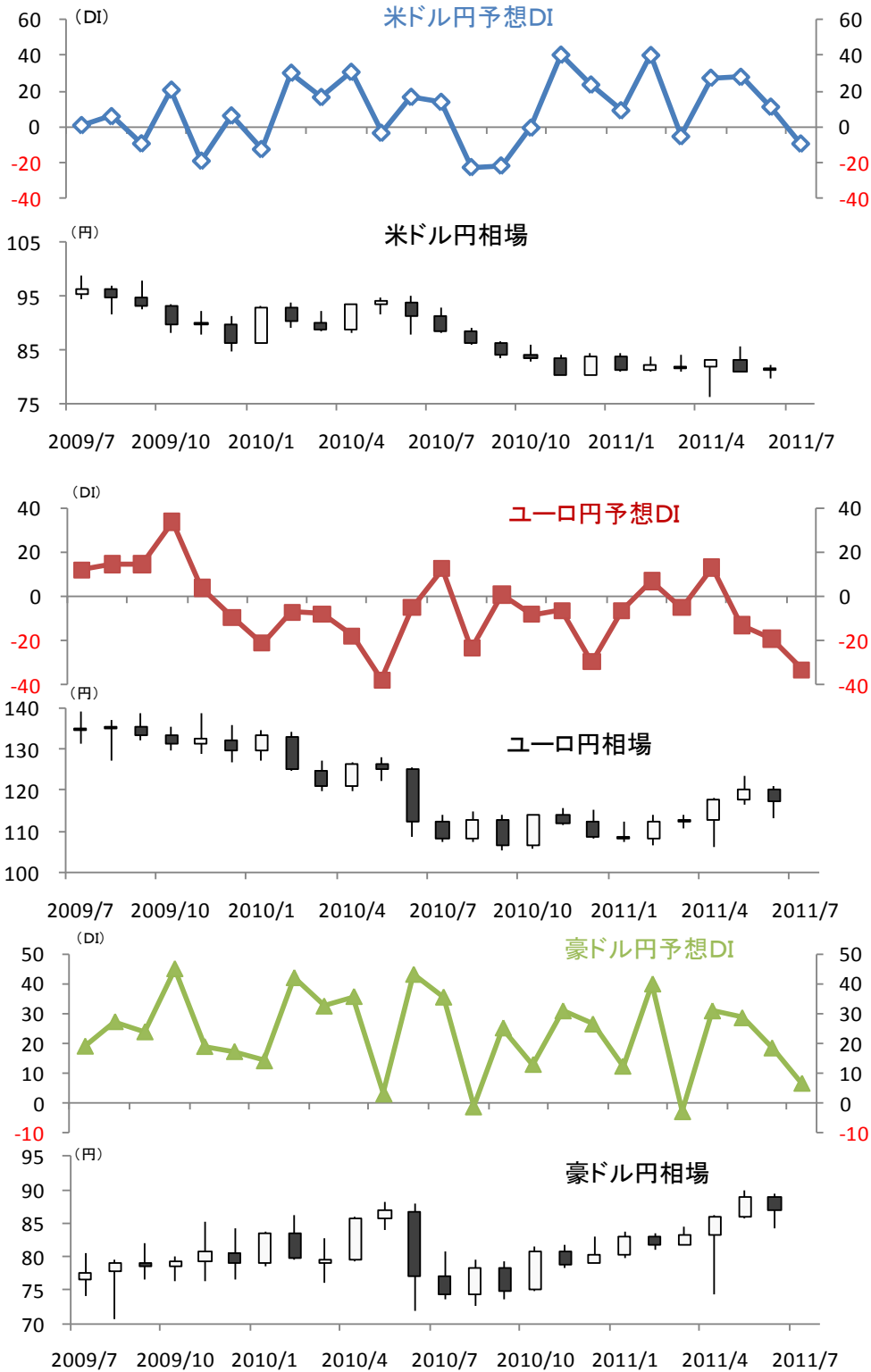
今月のもう一つの特別質問項目としてあなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「あまり変化なし」が47.0%と最も多く、次いで「悪くなっている」が44.2%、「良くなっている」は8.8%にとどまった。3カ月前の第23回調査(2011年4月)で同じ質問をした際は、「悪くなっている」が45.3%、「良くなっている」が11.8%であった。東日本大震災の発生を受けて、一時的に悪化したものと推測されたFX投資家の景況感だが、ドル円相場と同様に低水準での底這い状態が続いているようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第26回目となりました。前月との対比での時系列比較は可能になり始めていますが、開始後2年以上が経過し、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com